

令和3年経済センサス-活動調査産業別集計（製造業・概要版）の概要

令和3年6月1日現在で実施された令和3年経済センサス-活動調査産業別集計（製造業・概要版）の調査結果（従業者4人以上の事業所）による京都府における概要は、以下のとおりとなります。

事業所数	令和3年 3,952事業所	(参考) 令和2年 4,126事業所
従業者数	13万9,615人	14万5,211人
製造品出荷額等	令和2年 5兆2,704億円	(参考) 令和元年 5兆6,588億円
付加価値額	2兆1,671億円	2兆2,120億円

※参考までに前年数値を表示しているが、令和3年活動調査（令和2年）では個人経営を含まない集計結果であることから、令和2年工業統計調査（令和元年）と単純に比較ができないことに留意

1 従業者規模別の構成比

(1) 事業所数

事業所数の構成比をみると4~9人規模が41.2%と最も高く、次いで10~19人規模が24.4%、20~29人規模が12.0%の順となり30人未満の事業所が全体の77.6%を占めています。

(2) 従業者数

従業者数の構成比をみると300人以上規模が27.7%と最も高く、次いで100~199人規模が15.6%、50~99人規模が13.4%の順となっており、50人以上規模で全体の65.7%を占めています。

(3) 製造品出荷額等

製造品出荷額等の構成比をみると300人以上規模が38.4%と最も高く、次いで50~99人規模が20.4%、100~199人規模が15.3%の順となっており、50人以上規模で全体の82.1%を占めています。

(4) 付加価値額

付加価値額の構成比をみると300人以上規模が34.7%と最も高く、次いで50~99人規模が24.7%、100~199人規模が14.2%の順となっており、50人以上規模で全体の80.7%を占めています。

2 地域別の構成比

(1) 事業所数

事業所数の構成比をみると京都市域が51.6%と最も高く全体の約半数を占め、次いで山城中部地域が23.5%、中丹地域が7.7%の順となっています。

(2) 従業者数

従業者数の構成比をみると京都市域が44.1%と最も高く、次いで山城中部地域が24.6%、中丹地域が11.6%の順となっています。

(3) 製造品出荷額等

製造品出荷額等の構成比をみると京都市域が40.7%と最も高く、次いで山城中部地域が30.4%、中丹地域が11.4%の順となっています。

(4) 付加価値額

付加価値額の構成比をみると京都市域が39.3%と最も高く、次いで山城中部地域が34.0%、中丹地域が11.7%の順となっています。

3 産業別（産業中分類）の構成比

(1) 事業所数

事業所数の構成比をみると繊維が14.4%と最も高く、次いで生産用機械が11.6%、食料品が11.1%の順となっています。

(2) 従業者数

従業者数の構成比をみると食料品が14.9%と最も高く、生産用機械が10.4%、電気機械が9.7%の順となっています。

(3) 製造品出荷額等

製造品出荷額等の構成比をみると飲料・たばこ・飼料が14.2%と最も高く、次いでその他が11.5%、食料品が10.2%の順となっています。

(4) 付加価値額

付加価値額の構成比をみると、その他が15.9%と最も高く、次いで食料品が10.2%、生産用機械が8.9%の順となっています。